

(様式2)

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1572200762		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームさど(Aユニット)		
所在地	新潟県佐渡市両津湊343-45		
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームさどでは、</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者1人ひとりが生きがいを持って暮らす事が出来る。・地域の方とつながりのあるある暮らしができる。 <p>という2つの目標を軸に、ユニット毎、個人ごとに目標を設定し日々の業務に取り組んでいる。</p> <p>建物は、すぐ隣に湖があり、見渡しも良く開放的である。ご利用者も外の景色を眺めるのを楽しみにされている。</p> <p>家族や地域との関係性を強くするための取り組み。研修を通して職員の資質を上げる事に力を入れ取り組んでいる。又、今年度からは訪問看護の協力も得られるようになり、課題であった医療面のアプローチも力を入れられるようになってきている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は建物の2階にあり、1階には同法人のデイサービスセンターが入っている。建物が加茂湖畔にあるため、2階の食堂の窓からの眺望も良く、利用者は居心地よく過ごしている。建物の3階は有事の際の地域の避難場所に指定されており、隣接する消防署とは避難訓練等を通じて連携体制が出来ている。</p> <p>事業所では、「利用者、家族、地域、職員からあらゆることを学ばせて頂きます」「利用者を守るよう知識を身に付けていきます」という2つの目標を軸に、さらにユニットごとに目標を掲げている。2020年8月に上半期の振り返りと話し合いを行い、外出の機会を増やすとしたが、コロナ禍で外出の機会が極端に少なくなり、下半期はユニット内で行事を行うことを検討し、少しでも利用者を楽しんでもらえるよう臨機応変に目標の変更を行った。</p> <p>地域とのつながりを深めることや、家族とのつながりに力を入れて取り組んでいるが、今年度はコロナの影響が大きいので、地域の行事が中止になったり、家族との面会制限があったりと苦慮している。家族の面会も思うようにできないが、その中で、電話やTV電話などの工夫をしたり、写真を送るなど、利用者と家族のつながりが途切れぬように一層の努力をしている。会議では、週3回行っていた食材等の買い出しについて配達の利用も検討するなど、職員の業務改善をして空いた時間を利用者とのかかわりを増やしたり、毎月対象とする利用者を決め、職員間が意識的に密に関わりを持つ中で利用者への理解を深め気持ちを汲み取るなどの取り組みをしている。</p> <p>利用者個々を大切にしながら、家族とのつながり、地域のつながりを深められるよう取り組んでいる事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、ユニット内に理念を掲示している。会議等で確認の場も設けている。理念を元に日々の業務、カンファレンスに活かして実践している。	法人の佐渡部門の重点目標、事業所理念、さらに各ユニットの目標を事務室や各ユニットに掲示している。目標については、8月に上半期の振り返りを行い、内容を再検討して下半期に向けて見直している。日常的にも毎月ユニット会議で振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域との交流が図れていない。今後どうするか対策が必要である。	地域のお祭りや避難訓練に参加し、地区だよりに利用者との訓練参加の様子を写真入りで載せてもらうなどしている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で地域の行事も中止となり参加の機会が持てていないが、日常的に近隣の散歩時に地域の方と挨拶を交わしている。地域のどんど焼きが1月に開催されるという情報をもらい、参加の了解をもらったところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信が上手く行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面会議とし、2ヶ月に1回の定期開催をしている。ユニットの取り組みを報告している。書面にて意見を頂いている。	今年度はコロナ禍により書面会議としているが、各委員を訪ねて手渡しで説明をしている。情報提供に対する意見も委員から書面で寄せられており、会議開催時と同様に意見交換ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とはその都度連絡を取り合い協力関係を築くよう努力している。	生活保護の利用者については市の担当部署と適時電話等で連絡を取り合っている。島内に「地域医療介護連携協議会」があり、情報交換や方針の確認をしたりしているが、新型コロナウイルス感染拡大でマスクや手袋の入手困難が続いたため、市へ要請をして協力を得て調達できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を立ち上げ、研修も実施している。身体拘束を行わないように日々の業務や会議の中で職員同士話し合いをしながら具体的な支援を確認している。	「身体拘束・虐待防止委員会」で研修を実施している。センサーマット使用については、家族に内容を説明して同意書ももらっている。カンファレンスを随時行って使用の見直しをしており、センサーマットを使用する利用者が2人から1人になった。また、各ユニット入口の開閉時に音が鳴ることについても見直しを検討している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で職員同士、ケアや言葉使いについて話し合い振り返りと防止に努めている。また利用者が虐待だと思わないように相手の気持ちに配慮した言葉使いを意識している。	内部研修では、職員アンケートにあった事例を使用してグループワークを行い対応策を話し合っている。職員の言葉遣い等、実際の場面での対応に気になる点があれば、その都度ユニットリーダーが個別に話をしたりしている。職員がストレスを溜めないようユニットリーダーが常に話を聴くことに努め、管理者と連携して対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は外部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。成年後見制度を利用している方がおられるので今後も関係者と話し合い支援、協力体制を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度説明を行い疑問や要望に関しても確認し理解を得るように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からは日々の関わりを通じて意見や要望が聞けるように努力している。意見があった際には職員間で話し合いその後の対応に活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で面会が制限される中、テレビ電話ができる体制に変更して利用者の姿や写真等も見てもらえるよう事業所から発信しており、その中で具体的な家族からの希望、要望等を聴き取っている。ケアに対する意見は職員全体で共有できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や日々の職員同士の関わりを通じて意見や要望が聞けるよう努力している。意見があった際には職員間で話し合いその後の対応に活かしている。	業務に関しては、職員の負担が過大にならないよう職員から意見を募りながら具体的な対応策を講じるようにしている。職員の意見をもとに、週3回出かけていた食材の買い出しについて配達も取り入れる方向で検討したり、パソコンを事務室だけでなく各ユニットにも1台ずつ設置できるように環境を整える予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内に人事考課や目標管理などがあり職員の意見を取り入れていく仕組みがある。また管理者として職員に意識的に話しかけて風通しのよい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を主とした研修の実施、法人階層別研修や法人外の研修を勧めている。研修後は復命研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の6か所のグループホームとは連絡協議会を発足し3か月毎に参集し交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実際に契約に至る過程でなるべく自宅を訪ね入居前にある程度人間関係を築ける様努力している。訪問時に困っている事や不安な事を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同居している家族やキーパーソンとなる方等とは入居前の訪問時に充分話しを聞けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要なのかを見極め、他事業所についても説明や利用のアドバイスをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々で役割を持ち職員も一緒になって家事等行っている。また、本人の意欲を大切にしながら入居者と職員が助け合いながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会禁止が続いている為、ビデオ通話や、 メールでの情報共有を行っている。 個人差が出てきているのが課題である。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で面会制限を しているが、家族との関係が希薄にならないよ うに、日用品の補充や衣類等の入れ替えなど家族 に役割を持ってもらえるよう働きかけている。家に 帰りたいと希望する利用者には、近くに住む親戚 から対応してもらったり、また、近くのきょうだい の家を訪問したいという利用者には家族に連絡調整 の役割を担ってもらったことでスムーズに訪問す ることができた。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度外出が出来ていない。 手紙のやり取りは行っている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出が制限 されている中、入居前から利用している訪問マッ サージの方に継続して毎月来訪してもらったり、近 隣の親族宅への訪問や自宅への外出等、個別に 対応できる範囲で関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	入居者個々の人間関係や状態に配慮しな がら家事や行事等を通して関わりを持てるよ う努めており必要時は職員が橋渡ししてい る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もその都度相談があれば対応 する。また他の施設入所の支援も行ってい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者様との会話を通じ個々の思いや意向 の把握に努めている。会話から得た情報に ついては職員間で共有している。困難な場 合はその人の立場になって考えたり関わり やアセスメントシート等のツールを活用して 希望や思いを汲み取れるように努めている。	利用者と1対1になれる入浴時や、ケアの実践時に できるだけ本人と話を増やしていこうと 取り組んでいる。また、毎月対象利用者を決めて 職員で密に関わりを持つ中で、利用者の思いや希 望などを細かくくみ取って情報共有や対応の見直 しにつなげていくことにも取り組んでいる。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	利用申込時や事前訪問時の情報に目を通 し入居前の様子や日々の関わりの中から情 報収集している。家族からも様子を伺ってい る。	入居前にはできるだけ自宅訪問をして普段の生活 状況を確認している。家族から情報を得たり、本人 に関わりのあった方にも家族から情報を確認して もらうなどしている。今まで利用していたサービス事 業所や居宅のケアマネージャーなどからも情報を もらっている。入居後も新たに得た情報をシートに 追記して共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者様の状態の把握に努めている。出来る事、できない事等のカンファレンスを行い支援の見直しと観察、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を職員でカンファレンスを行いご家族、本人とその都度相談し介護計画に反映している。	担当職員が本人や家族の意向を確認した上で、モニタリングやアセスメントを行い、介護計画の原案を作成している。カンファレンスでの検討を経て、本人・家族に確認をしている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で家族がカンファレンスに参加することが難しいため、計画原案を家族に送付し、確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア・実践・結果・気づきなどを個別記録に記入し口頭でも全職員に周知し情報共有できおり介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部より、ミュージックケア、傾聴ボランティアを定期的に受け入れていたが、現在ストップしている状況。対策が必要。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度、地域との関わりが薄くなってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診対応してくれている協力病院の医師との関係は良好で一人ひとりの状態をしっかりと把握し対応してくれている。本人や家族の希望を伺いながら受診している。	協力医から2週間に1回訪問診療に来てもらっている。前日に利用者の情報を持参して当日朝に確認の電話をもらうなど連携を図っている。専門医へは家族に受診対応を依頼しているが、職員が受診同行している場合もある。今年度から訪問看護ステーションの協力を得て週1回の健康管理や、夜間の電話対応等で協力体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師が24時間オンコール体制を取ってくれている。又、2週に1度、状態確認に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時どのような状況であるか聞きに伺ったり退院時にはグループホームに戻っての生活に支障がないように容態に注意すべき所や急変の対応についてその都度相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い医療的加護が必要になった場合など当グループホームで対応できない状況になった事を想定し将来に向けた話し合いを随時している。具体的には医療行為、看取りなどは対応していない。	「重度化看取りに関する指針」が作成されており、入居時に利用者、家族に説明している。入居後の介護度の変更や、身体的状況の変化などに応じて、本人、家族の意向を確認して話し合いを行い、できるだけスムーズに適切な住まいに移行できるように支援をしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の一般的対応はマニュアル化しており職員会議で研修委員より研修を行った。職員は普通救命講習を定期的受講している。感染症や食中毒などの予防、対策も研修を通して行っている。	職員は全員、AEDの操作を含めて普通救命講習を受講している。今年度は佐渡総合病院の感染症認定看護師が島内の事業所を巡回して新型コロナウイルスを含めた感染症の研修を実施しており、事業所の全職員も受講した。終了後に感染症対応セットを作り、再度感染制御チームによる研修を実施した。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災を想定した避難訓練を実施している。地域との協力体制はないが、隣接する消防署から指導を受けたりと手薄な夜間に協力が得られるよう要請している。	避難訓練は毎年2回実施していたが、今年はコロナ禍により11月によりやく市から許可が出て、消防署立ち合いで利用者の参加を得て火災想定での避難訓練を実施した。マニュアル等は見直して整備ができており、備蓄は3日分の食料等を確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠けた言葉がけを避け一人ひとりに合わせた声かけや関わりを行っている。また、利用者間のトラブルの時にもその後の関係に支障がないように双方のフォローをしている。	利用者とはできるだけ個別にじっくり関わる時間を作るように業務改善に取り組んでいる中で、職員の不適切な対応場面があった場合は個別に話をしたり、研修で場面設定をして全体で検討するなど全体の課題として捉えて対応している。特に排泄時の声掛けや入浴時の対応など、ゆっくと楽しんでもらえるような関わりをしている。日々の記録類はカウンター下の棚に保管するなどプライバシーにも配慮した対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の食べたい物や好きな物はメニューに取り入れるようにしている。また、会話の中から希望を引き出しその希望に添えるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時々に応じてご利用者の様子や希望を聞きながら対応している。どうしても希望に添えない時にはきちんと理由を説明し納得して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、自分で髪をとかしていただけるようクシを渡し整えていただいたりタオルを渡して顔を拭いて頂いている。男性利用者には髭剃りで剃っていただくよう声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が利用者の好みの把握をしながらその人に応じた食事形態で提供している。	献立は1週間おきに交代で職員が作成している。利用者には、テーブル拭きや食器拭き、ゴミ捨てなど可能な範囲で、当番制で力を発揮してもらっている。ホットケーキや白玉などのおやつを作って楽しんだり、時にはお弁当を取ったりするなど、できるだけ利用者の好みや希望を活かしていくように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、食形態は個々に合わせ提供している。水分も入居者の希望に応じてお茶だけで無く、本人の好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科との連携を強めている。 月に1度往診に来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをある程度把握し、おむつやパットの種類を変えながら利用者一人ひとりに合わせた誘導や排泄用品を使用している。 オムツからパンツになる方は作れていない。	日常の経過記録に排泄状況を記録している。日中はトイレ使用の方がほとんどだが、夜間はポータブルトイレを使用している方もいる。排泄がうまくいかない時はあらためて排泄パターンを把握し、声掛け等を行うことで尿取りパット等の使用量が減った事例もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供を進めている。散歩等軽い運動も個々に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっている為、希望に添えていない部分はあるが入りたい順番や時間を考慮しながら対応している。季節感を感じて頂けるよう、ゆず湯や菖蒲湯など行い工夫している。	本人の好みのペースで入浴ができるような体制づくりをしている。湯舟が大きいのでゆっくりと入浴を楽しんでもらっており、車いすの方も職員の2人介助により気持ちよく入浴してもらっている。季節感を感じてもらえるようにゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を利用して楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの寝る時間に合わせて休んで頂いている。部屋の温度や照明、換気に気をつけ声かけや話を聞いて眠りやすいようケアをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	わからない薬や新しい薬が処方されると説明書を見て把握するよう心がけている。職員が配薬し各勤務者がその都度2人で確認し服用時も本人に直接渡し確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品のある利用者様に対しては個別に対応している。本人のニーズが満たされていない時もあるが本人がやりたいことはして頂きながら出来ることや役割が継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が少ない。散歩は施設周りで行っている。人により頻度が違ってくのが課題である。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出の機会が減っており、全体の外出はできないが、ゆっくり近所を散策したり、自宅や近くの親族の家に行くなど、個別の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しいので事務所で管理している。欲しいものや買いたい物がある時には職員が代行して購入している。個人が買いに出る事は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人自らの電話も可能である。 今年度よりラインを使ったビデオ通話も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごしやすいように日々の状況や状態に合わせて環境に注意している。季節が分かりやすいように毎月利用者と一緒に折り紙や画用紙等を使って飾りを作り飾り付けをしている。また中庭にも花等植えたりして季節を感じて頂けるように努めている。	食堂・リビングの大きな窓からは加茂湖が眺められ、陽光も沢山入り開放的である。ユニットの廊下の空間を利用して椅子とテーブルを置き、利用者が一人で気ままに過ごせる空間を作るなど工夫をしている。各ユニットの壁には利用者が書いた習字の作品を展示したり、利用者が活けた花を飾ったりしている。中庭ではプランターで季節の花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の眺めが良いので、ソファやテーブルを設けゆっくりと過ごせるよう工夫している。パブリックスペースの有効活用をしていきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく入居前に使用していた食器類や家具、寝具、日用品を持ち込んで頂いている。居室によっては本人の使いやすい物や好みの物が置いてあるが準備できていない居室もあり今後、本人や家族と相談しながら対応していきたい。	居室には、必要なすべての物を持ち込むことをお願いしている。布団の方もいれば、ベッドをレンタルする方もあるなど本人の状態や希望に合わせている。テレビや椅子、こたつなどのほか、家族の遺影やアルバム、貼り絵の作品などを飾っている。掃除は週1回行っており、可能な利用者には職員と一緒に実施してもらっている。衣類の入れ替え等も、利用者が職員や家族と一緒にしている。職員は利用者本人が居心地が良く過ごせる環境整備を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでありながら障子風のパーテーションでプライバシーを配慮した設計となっている。利用者の状態に合わせてベットの位置、タンス、食堂の席など対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない